

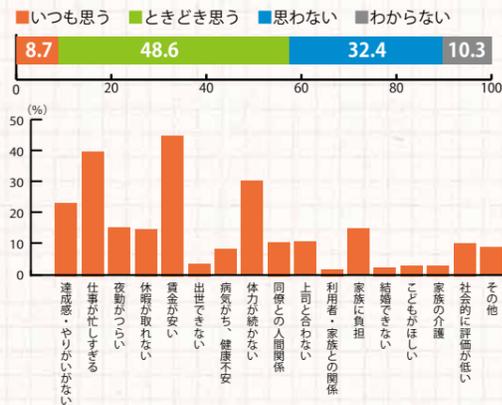
きびしい実態は介護の現場でも

全産業平均よりも9万円も低い介護職員

介護施設で働く正規労働者の2013年10月の平均月収20万7,795円は、全労働者の平均29万7,700円（厚生労働省平成24年度版賃金構造基本調査）と比較して9万円の格差となっています。また、時給制労働者の全職種平均は「時間額1,051円」でした。都市部（首都圏・近畿圏など）では「時給1,000円以上」が7割を占めたのに対して、地方（東北・九州など）では、「時給1,000円未満」が多数を占め、介護労働者の賃金の地域間格差が大きいことも明らかになりました。

一方で「こんな仕事、もうやめたい」と思うことがあるかとの問いに、「いつも思う」が8.7%、「ときどき思う」が48.6%となっており、半数以上の介護労働者が「辞めたいと思う」と答えています。「やりがいがあると思う」と回答した人でも、「いつも」と

「ときどき」を合わせて46.5%の人が仕事を辞めたいと「思う」と回答しており、介護の深刻な労働実態が浮き彫りになっています。



介護職員の声



- 「介護施設の夜勤は看護師1人介護士1人で入所者の急変があると看護師は救急車に同乗するためその間介護士は1人で危険」
- 「ヘルパーの仕事は利用者の自宅に入り1対1で対応し責任が大きいが不規則な労働時間で収入が不安定。ヘルパーの希望者がなく人手が足りない」
- 「求人しても来なくて補充がすぐでできず職員の負担増、利用者のサービスの質が不安」

- 「入所者10人に対して1人ないし2人で対応しているが食事介助が必要な利用者が8人もいると食事介助の安全が不安。食べるのに時間がかかり本人のペースに合わせたら次の業務に支障になることも考えながら大変な思いをしている。利用者のための介助をと思う反面、仕事の効率も自分の評価と考えるとただ不満がつる毎日です」

夜勤配置はほとんどの職場で2人体制以下、1人体制も…。

介護施設夜勤実態調査（2014年日本医労連）によると、夜勤配置はほとんどの職場が2人体制以下で、老人保健施設以外の特別養護老人ホーム、グループホーム、小規模&複合型施設等はほぼ1人体制でした。老人保健施設の夜勤配置の要件は「利用者が40名以下」で「2名以上」としかされておらず、施設の裁量で実際の配置に大きく影響しています。グループホームや小規模&複合型の夜勤配置要件は1人夜勤を容認しており、夜間時の利用者の安全を守る水準とは到底言えず介護施設の夜勤配置要件の改善は急務です。



- 介護職員の賃金を改善すれば離職防止、人材確保につながります。

- 人材確保がすすみ、人員配置が増えれば、利用者のニーズにあった専門職としてやりがいのある介護が提供できます。

愛知県医労連は安全・安心の医療と介護を実現するために、国に実効ある夜勤規制や労働条件を改善するよう、地方議会の意見書採択の取り組みや国会請願署名の取り組みをすすめ、国会議員のみなさんの紹介議員・賛同者の協力をお願いしています。みなさんのご支援・ご協力をお願いします。

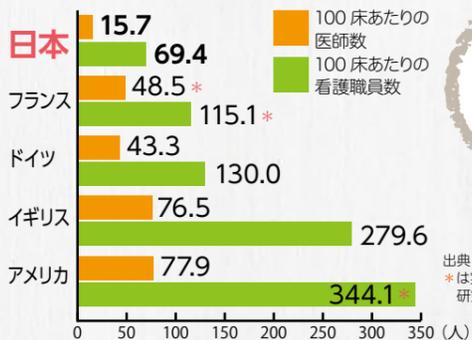
いい看護・介護がしたいから

夜勤交替制労働の改善を



だけど、今は…人手不足による過重労働が深刻

7割以上の看護職員が慢性疲労を抱え、健康不安を感じています。過酷な夜勤・交替制勤務、長時間労働は注意力の低下を招き、医療ミスをおこしかねない状況をつくり出します。これは、いのちに直結する深刻な問題です。



こんなに少ない日本の医師・看護職員数

出典：「OECD Health Data 2010」
*は実際に臨床にあたる職員に加え、研究機関等で勤務する職員を含む

夜勤は患者、利用者の安全と働く者の健康に影響します。

①安全リスク 作業能力が酒気帯び状態より低下!!

夜勤・長時間労働は心身に大きな負担をかけ、注意力が低下し、事故発生率を高めます。

②健康リスク

夜勤・交替制勤務は、働く人のリスクを高めます。睡眠障害や循環器系障害の他、人工照明を夜間浴びることで、乳がんや前立腺がんの危険も指摘されています。

夜勤交代制労働者の「1日の労働時間は8時間」

「夜勤間隔12時間以上」「週32時間以内」を実現しましょう。

愛知県医労連（愛知県医療介護福祉労働組合連合会）

〒456-0006 名古屋市熱田区沢下町9-3 労働会館本館403

電話：052-883-6955 ファックス：052-883-6956 <http://www.aichi-irouren.jp>





看護職員の離職は年間16万人 勤務環境の整備が必要



医療や介護の現場は、慢性的な人手不足のため、働き続けることが困難な状況です。厚生労働省は、離職者は年間16万人と推定し、夜勤交替制労働の負担軽減など勤務環境整備を求める通知を発出し、医療法に勤務環境改善の努力義務を規定し、都道府県に勤務環境改善支援センターも設置されました。

しかし、依然として16時間を超える長時間夜勤や休息もできない短い勤務間隔、介護施設などでの1人夜勤などの実態があります。

特に夜勤・交替制勤務は、身体負担が大きく、慢性疲労・睡眠障害・循環器系障害・発がん性など健康への影響が危惧されています。酒気帯び運転と同程度に労働能力が低下します。こうした実態は労働者の健康だけでなく、患者・利用者の安全を脅かします。

看護師の半数“離職考えた”

(愛知県アンケート調査)

愛知県が、県内の看護師にアンケート調査を行った結果(16年1月実施/回答数3,192人)、「この1年の間に離職を考えたことがあるか」をたずねたところ「ある」と答えた人は全体の50.2%に上りました。離職を考えた理由を複数回答で尋ねたところ、「給与に不満がある」と答えた人が最も多く、6割に上ったほか、「責任が重い」、「精神的な健康が不安」と答えた人が半数近くもいました。



「こっちはおねがい」「おーい」「すみません」

疲れ切った看護師によい看護はできません

愛知県医労連は、県内の国公立・民間43の病院で「看護職員実態調査」に取り組み、2,586人から回答をとりまとめました。

TROUBLE 1

看護師は疲れている

「慢性疲労」 70.6%
「健康に不安」 52.3%
「健康不調」 32.1%

「疲れが翌日に残ることが多い」、「休日でも回復せずいつも疲れている」を合わせた、いわゆる「慢性疲労」は70.6%に上っています。さらに68.1%が仕事で「強い不満、悩み、ストレスがある」と答え、「健康不調」は32.1%が「やや不調」、「非常に不調」と回答しており、厚生労働省調査の全産業(女性)に比べ約20P高くなっています。



TROUBLE 2

危ぶまれる母性

流産10人に1人
4割が妊娠者の夜勤免除 なし

「妊娠時の状況」 「順調」と回答した人は27.6%しかいませんでした。「症状」の上位は「つわりがひどい」42.4%、「切迫流産」25.5%、「貧血」23.9%の回答が上位に上がっています。「切迫流産」25.5%、「流産」10.3%、「早産」4.9%を含めると妊娠者の40.7%が異常出産・流産を経験する深刻な状態となっています。この数字は、全労連の調査(2007年『妊娠・出産・育児に関する実態調査』1800人集約)結果と比べると2倍近い値となっており、看護職の母性が危ぶまれる状態にあります。

「母性保護の支援措置」は、「夜勤・当直免除」60%と回答しており、妊娠者の40%が夜勤免除されていない結果が明らかになりました。

過重な夜勤労働

TROUBLE 3

勤務間隔12時間未満の合計63.5%
16時間以上の夜勤全体の9%
仕事を辞めたい 76%
理由は「人手不足で仕事がきつい」47%がトップ

医療・介護の職場は24時間365日切れ目のない労働の上に夜勤・交替制が重くのしかかっています。同調査によると、「仕事を辞めたい」は76.2%で4人に3人までもが辞めたいと思いながら仕事をしています。仕事を辞めたい理由は「人手不足で仕事がきつい」47.3%がトップで、「休暇がとれない」39.5%、「夜勤がづらい」33%、「賃金が安

い」31.8%も30%以上となっています。交替制の看護職員の勤務と勤務の間隔「インターバル」は、「4時間未満」6.7%、「8時間未満合計」45.5%、「12時間未満合計」63.5%に上っています。夜勤の拘束時間は、16時間以上夜勤は全体の9.0%に上っています。このような過重労働によって、25歳の村上優子さん(2001年国立循環器病センター勤務)がくも膜下出血で死亡した時間の過労死裁判では、夜勤交替制労働の過重負担を認めて通常より短い50~60時間の時間外労働で過労死が認定されています。また、2012年12月にKKR札幌医療センターで働く新人看護師が入職8か月で過労自殺しており、いのちを削って働いています。



様々な看護師の仕事の上に夜勤があり患者の高齢化により負担が大きくなる

NHK名古屋が『ナビゲーション』という番組で愛知県医労連が取り組んだ看護職員実態調査の結果を深刻に受け止め、『疲弊する看護師~超高齢化の病院で何が~』と題した番組の特集が組まれました。



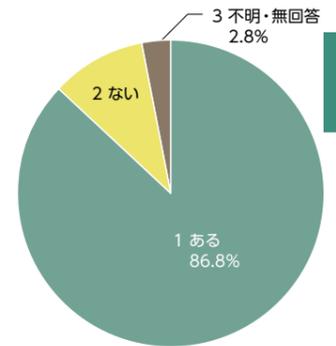
TROUBLE 4

医療ミスが心配

患者の安全に関わる「ミス・ニアミス」が約9割背景に慢性的な人手不足

「ミス・ニアミス経験」は「ある」86.8%。「原因について」は「慢性的な人手不足による忙しさ」82%で最も多い。「十分な看護ができていない」は、わずか11.2%で、「できていない」が57.7%に増加しています。

「医療事故の原因」は、「慢性的な人手不足による忙しさ」が83.3%と突出して高くなっています。



看護の仕事は好きだがもう辞めたい

精神的にも肉体的にもボロボロ

仕事に来るのが憂鬱で常に辞めたいと思う日々

月11、12回夜勤をしてへとへと。家族とすれ違う日々

手術が立て込むと24時間働くこともあり、ミスが増えて患者にとっても危険

命を預かっておりミスは絶対に許されない。ミスの度に自分を責め追い込む

夜勤は緊張感が増し夜勤が終わると頭痛が始まりおう吐することも

妊娠8カ月目出血し切迫流産に。自分のことなんか考えてられない目の前の患者さんが優先